

静岡

沼津市で全国初実験 自動運転EVバス+信号制御

沼津市では、持続可能なコンパクトなまちづくりを推進しており、とりわけ、拠点と拠点を結ぶ公共交通の果たす役割は重要であると考えています。なかでも、都市拠点である沼津駅周辺と約2kmの距離にあり観光拠点である沼津港との結びつきを強化し、港のにぎわいを中心市街地や市全体に波及させることが今後のまちづくりにおいて重要であることから、平成30年10月から1ヵ月間、沼津駅-沼津港間をつなぐ路線において、グリーンスローモビリティ(EVバス)*の実証実験を実施しました。従来の路線バスによる移動手段に加え、ゆったりと楽しく移動できるグリーンスローモビリティの運行により、来訪者が目的に応じて多様な交通モードを選択できる環境をつくることで、実験期間中には約3,000人に乗車いただくなど大変好評を得ることができました。このような実績から、「しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト」を進めていた静岡県から、都市部における自動運転の実験フィールドとして本路線での走行を提案いただき、県と市が連携して取り組むことになりました。

このプロジェクトは、次世代モビリティによる県内企業の技術開発の促進と地域公共交通の課題解決を目的としており、過疎地などでも展開され様々な関係者と連携のもと進められています。

沼津市における実験は、公道においてバスタイプ(16人乗り)の車両を用いたレベル3の自動運転技術と、車両を優先的に走行させるための信号制御技術を組み合わせた国内初の実証実験となりました。群馬大学が所有する最高速度19km/hのグリーンスローモビリティe-COM10に同大学が開発した自動運転システムを搭載した車両を使用し、GPSとレーザーセンサーにより走行位置を確認しながら運行しました。また、自動運転車両の走行に合わせ、信号機を制御する

交通管制システムが自動運転車両の位置情報を感知し、通過時間を予測することにより青信号と赤信号の時間を調整・制御し、車両を優先的に走行させる検証も行いました。実験は、令和2年1月22日からの10日間実施し、一部の期間では、手動による運行もありましたが、約1,600人に乗車いただきました。現在、運行時のログデータ解析や他の交通への影響、アンケート調査分析など本実験結果の取りまとめを行っています。

自動運転やMaaSなどの新たなモビリティサービスは、公共交通における生産性の低下や運転手不足、高齢者の移動手段の確保などの社会問題を解決する手段であるとともに、今後の都市のあり方やインフラ整備に変革をもたらす技術であり、実用化によってまちづくり、生活、産業等に対して、大きなインパクトがもたらされます。

このため沼津市では、自動運転をはじめとする新技術に係る検証を重ねていくことが重要であると考えており、引き続き、産学官連携のもと取り組みを推進していきたいと考えています。

※グリーンスローモビリティ
電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のモビリティ



沼津駅前を走行する自動運転EVバス